

よろこび多重奏

主幹 田中新

3月3日、番傘フェスタ2024が本社例会場である「たかつガーデン」で開催され、第9回水府賞には井本健治さん、番傘賞には青嶋由紀美さん、第10回磯野いさむ賞には植野美津江さんが受賞されました。

永年同人表彰では、45年表彰に小梶忠雄さん(滋賀)、25年表彰に横井幸子さん(福井)、染山朝子さん(岡山)、竹明なおみさん(京都)、瀬川幸子さん(大阪)、中山恵美子さん(大阪)、鈴木昭子さん(岐阜)、田中五十鈴さん(愛知)の皆さんが表彰されました。

新同人紹介では、諸富幹夫さん(大分)、原弘子さん(奈良)、西川東岳さん(長崎)、中村八十八さん(佐賀)、西上遊二さん(大阪)、上坊幹子さん(京都)、吉井楼太さん(宮崎)、和田健史さん(徳島)、野口龍さん(兵庫)、奥野健一郎さん(大阪)の皆さんがお披露目されました。授賞・表彰されました皆さん、そして新同人の皆さん、おめでとうございませう。これからも更なるご活躍を期待しています。

3月7日、第40回織田作之助賞贈呈式が、綿業会館7館・大ホールであり、小生も実行委員の一人として、織田

作之助青春賞の選考委員をされている堂垣園江さんとともに出席してきました。

第40回織田作之助賞には乗代雄介のりしろゆうすけさんの「それは誠(文藝春秋)が受賞。青春賞には石澤遥さんの「とんぼ」(三田文學)2024年冬季号に掲載)が受賞されました。

記者会見で、乗代さんは「足で歩いて書く」をモットーにしていると話されていました。

3月10日、中之島フェスティバルタワー・ウェスト4階にある中之島会館で「嘶家五十年 露の都十八番」があり、露の都さんにおめでとうを言いに行ってきました。

同級生から露の都さんの落語会に行くとの連絡を受けたのですが、小生は知らなかったたので直接都さんに電話して日時場所をお聞きしました。

「田中先生、今日はお電話ありがとうございました。ビックリしました。でもお話できて嬉しくて師匠の存在も感じられて幸せでした。五十年の会是非お越し下さいませ。お待ちしております。都」のメッセージとともにチラシを送っていただきました。

ゲストが桂文枝さんの最終日に行かせてもらいました。文枝さんはイラストレーターの成瀬國晴さんとともに川柳「相合傘」(コロナ禍以降休会中)のメンバーです。

3月17日、熊本番傘お茶の間川柳会創立10周年記念川柳大会が、県民交流館パレア鶴屋本館9階で開催され、大阪からも11名が出席満員の盛況でした。小生は前日「わかくさ」の句会があったため、当日トンボ返りで駆け付けました。

黒川孤遊さんが10年前に大阪から熊本へ帰ることになったという連絡を受けた時に、九州には熊本県だけが番傘の川柳会がないので熊本に是非立ち上げてもらいたいとお願していたので何が何でも出席してお祝いしたいと思っただけです。

噴煙川柳社の平田朝子主幹もご出席されていたのでよろこびました。

そして、もう一つ孤遊さんが番傘誌に再掲連載されていた『流花―女性川柳家伝』を飯塚書店から上梓されたことのお祝いもありました。

表題の「流花」は、人生の流れに翻弄されながら、立ち向かい、あるいは流される自身を川柳に詠った「おんな」花。そんな意味の孤遊さんの造語です。

孤遊さんには、くれぐれも健康に留意しながら後進のご指導をこれまで以上によりしくお願いしたいと思います。

さて、これからの予定ですが、3月23日、福井の金津番傘川柳会主催の第2回蓮如の里川柳大会に選者として出席

します。北陸新幹線で賑わっている福井の風を存分に味わってこようと思っっています。

そして、月末の3月27日(水)から4月1日(月)まで阪神梅田本店8階催事場で開かれる「阪神タイガース日本一記念 成瀬國晴個展」さあ みんなで今季も「」を覗きにいくつもりです。

